

## 第6学年 国語科 学習構想案

日 時 令和4年9月21日(水) 第5校時  
場 所 5・6年教室  
指 導 者 教諭 坂田正和

### 1 単元構想

単元名	作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう「やまなし」 資料「イーハトーヴの夢」 (光村図書P103～P127)		
単元の目標	(1) 比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知(1)ク) (2) 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる(思C(1)エ) (3) 文章を読んで理解したことに基ついて、自分の考えをまとめることができる。(思C(1)オ) (4) 表現や構成等に着目して作品全体をとらえ、言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク)	① 「読むこと」において、人物像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)イ) ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基ついて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)		① 表現や構成等に着目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって自分の考えを書こうとしている。
<b>単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)</b>			
表現や構成の工夫に着目し、表現の工夫が読み手に与える効果を考えながら、作品に描かれた世界を自分なりにとらえ、進んで伝え合おうとする児童			
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
宮沢賢治の世界を紹介カードにまとめ、友達と伝え合おう。		表現の効果に着目し、友達と比べながら考えることを通して、言葉への自覚を高めること	
<b>指導計画と評価計画(9時間取扱い、本時5/9)</b>			
過程	時間	学習活動 (「問い」を設定しても可)	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
第一次	1	① 作品について想像できることを話し合い、学習計画を立てる。 ② 物語の構成、あらずじをとらえ音読し、初発の感想をまとめる。	【態①】(観察・記述) ○単元のためあてや学習計画を理解し、見通しをもって、「やまなし」「イーハトーヴの夢」を読もうとしている。
第二次	2	③ 「五月」「十二月」で描かれている風景を、簡単な絵や図に表す。	【知①】(観察・記述) ○語のリズムや表現のもつ美しさ、比喻などの表現上の特色に気づいている。
	3	④ 「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方について話し合う。	【思C①】(発言・記述) ○物語世界の全体像を具体的に想像するとともに、宮沢賢治の生き方や考え方、作品の特徴を捉えている。
	4	⑤ 「やまなし」の心をひかれる表現に線を引き、その情景を想像する	【思C①】(発言・記述) ○題名に着目しながら二つの場面を比べて読み、表現の効果を考えている。
	5 (本時)	⑥ 「五月」と「十二月」の場面を比べ、感じたことや考えたことをまとめる。 ⑦ なぜ「やまなし」という題名にしたかを考える。	【思C②】(発現・記述) ○作者が作品に込めた思いについて、資料の叙述に基ついて、自分の考えをまとめている。
	6	⑧ 「わたしの考える賢治カードに、宮沢賢治の生き方や作品に込めた思いなどをまとめる。	【態①】(発現・記述) ○表現や構成等に直目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって自分の考えを書こうとしている。
	8	⑨ まとめた文章をグループで読み合い、感想を交流する	
第三次	9	⑩ 学習を振り返る	【思C】(記述) ○友達の考えを聞き、自分の考えを広げている。 【態①】(観察・記述) ○単元全体を振り返るとともに、これからも作品世界を想像しながら進んで読書しようとしている。

## 2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所（内容、指導事項等）

小学校学習指導要領 5 学年及び 6 学年

〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項ク (学習指導要領 P17～P22)

〔思考力、判断力、表現力等〕 C(1) エ・オ (学習指導要領 P146～P152)

教材・題材等の価値

「やまなし」は、谷川の底から見た水中の世界が、「五月」と「十二月」の 2 枚の幻灯という場面で示されている。その 2 つの場面を対比させながら、宮沢賢治独特の色彩豊かな表現で描かれている。それらの構成、表現から作品世界を捉えさせたい。また、資料「イーハトーヴの夢」を手がかりにし、宮沢賢治の生き方と作品とを重ねて、宮沢賢治の作品を読み味わわせたい。感じたことを、自分の自分なりの言葉でまとめる活動を通して、学びを深めていくことに適している。

本単元における系統

5 年 ①たずねびと（物語）  
②やなせたかし（伝記）  
③大造じいさんとガン（物語）

6 年 視点のちがいに着目して  
読み、感想をまとめよう  
「帰り道」

作品の世界をとらえ、  
自分の考えを書こう  
「やまなし」  
「イーハトーヴの夢」

6 年 登場人物の関係をとりえ、  
人物の生き方について話合おう  
「海の命」

中 1 ・ 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。 (知B(1)オ)  
・ 文章の構成や展開、表現の効果のうちで、根拠を明確にして考えること。 (思C(1)エ)  
・ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。 (思C(1)オ)

児童の実態（単元の目標につながる学びの実態）

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況 ▼は、全国平均を下回っている

調査内容（物語教材に関する実態）（R3 NRTの結果より）	正答率
心情の読み取り	90
場面の読み取り	50
表現された気持ち	▼70
人物像の読み取り①	90
人物像の読み取り②	90
感想の理解	▼50

調査内容（物語教材に関する実態）（R3 熊本県学力調査より）	正答率
登場人物の様子について、描写を基に捉えている	100
登場人物の様子について、描写を基に捉えている	70
文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。	40

■本単元の学習に関する意識の状況

調査内容	とても	まあまあ	あまり	ない
①単元の学習で何のために学ぶのか分かって授業に取り組んでいる。				
②授業で「わくわく」するような好奇心や興味・関心を持って学習に取り組んでいる。				
③授業で「なぜ」「おそらく」など、疑問を持ったり、予想したりして学習に取り組んでいる。				
④授業で「なるほど」「やってみよう」「きっと」など、挑戦したり、納得したりして学習に取り組んでいる。				
⑤授業で「もっとやってみよう」「分かった」「できた」など、実感や達成感を味わったり、家庭学習に生かしたりして学習に取り組んでいる				
⑥授業でタブレットを活用することで、学ぶ意欲が高まったり、学習を理解できたりしている。				
⑦物語の学習は好き。※その理由				
⑧物語で、作者が伝えたいことが分かる。				
⑨物語を学習することで役に立つ。※理由やどんな時				

⑩今までに学習した物語で印象に残っているものはあるか。

⑪4Cで、どの力を伸ばしたいか。

(資質・能力に関して) 学力検査の結果を見ると、「表現された気持ち」や「感想の理解」において平均よりも下回った結果となっている。文章表現と話の流れから、登場人物の気持ちを読み取ることが不十分であるといえる。人物の気持ちを読み取るためには、全体や前後に示された言葉をよりどころとすることが十分にできていないのが要因の一つと考える。

(学びに関して) アンケート結果をみると、

きよらっこ学習については、おおよそ定着しているが、ガイド学習については、まだまだ指導が十分といえず、うまく進めていくことには不安がある。しかし、みんなで助け合って何とか進めることができています。

### 3 指導に当たっての留意点

「わくわく」が連続し、「なぜ」「なるほど」「もっとやってみよう」が生まれる授業  
～国語科において、くりん小版4Cを育成するための「きよらっこ学習」過程の工夫～

【仮説1】国語科において、くりん小版4Cを育成するための「きよらっこ学習」過程の工夫を行えば、「わくわく」が連続し、「なぜ」「なるほど」「もっとやってみよう」が生まれる授業になるだろう。

#### ○仮説1について

「わくわく」

・単元の導入において、「宮沢賢治紹介カード」を、自分の言葉でまとめることを知ることで、目的意識を持てるようにする。

「なぜ」「なるほど」

・それぞれの場面を絵に描くことで、必然的に言葉に着目するようにする。

・構成や独特な表現に着目したり、筆者の生き方と作品とを重ねることで、作品に対する自分の考えが持てる体験ができるようにする。

「もっとやってみよう」

・「宮沢賢治カード」を書くためのポイントとして、「やまなし」の表現の構成の何に着目したのかを明確に示し、それが読みの手がかりとなるように工夫する。

・宮沢賢治の生き方（イーハトーヴの夢）と「やまなし」を重ねて読む経験から、宮沢賢治の他の作品に親しむと同時に、今後の読書において、言葉はもちろん、作者や筆者の生き方と重ねて読んでいく態度を育てる。

【仮説2】学習環境を充実させ、振り返りの視点を明確にすれば、計画的な家庭学習や読書につながるだろう。

#### ○仮説2について

「学習環境」

・単元全体の流れが分かるよう、学習計画表の拡大用紙を掲示する。

・宮沢賢治コーナーを設置し、子どもたちが手軽に手にすることができるようにする。

「振り返りの視点」

・学習のめあてに対する振り返りとなるように、めあてとの整合性を図る。

・「なぜ」「なるほど」「もっとやってみよう」の中から特に自分が意識した項目を選択して、振り返りをする。

「計画的な家庭学習」

・「宮沢賢治コーナー」を設置し、読んだ感想を一言書けるようにし（付箋紙）ておき、友達の感想に共感したり、比較したりできるようにし、宮沢賢治の作品に関心を持ち、また、これから先、作者から選択する読書にも広がっていけるよう意識させる。

#### ○人権が尊重される授業づくりの視点から

①自己存在感・・・各自の読み取り方を肯定的に受け入れることを大切にする。

②共感的な人間関係・・・グループで考えを伝え合ったり、整理したりする場の設定を行う。

③自己選択・決定・・・本単元の学びを生かして、家庭学習で「やってみよう」という思いを持たせるようにする。

## 【板書計画】

作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう

「やまなし」  
「イーハトーヴの夢」  
宮沢賢治  
畑山博

き 「五月」「十二月」を比べ、宮沢賢治が「やまなし」にこめた思いについて考えを伝え合おう。

課題 宮沢賢治は、題名を、どうして「やまなし」にしたのだろうか。

よ

言葉 イメージ イメージ 言葉。

青白い  
五月に  
ついで  
前時に  
まとめた  
プリント

かわせみ こわい 明るい やまなし  
不安

きらきらつと  
黄金のぶち

五月に  
ついで  
前時に  
まとめた  
プリント

宮沢賢治は、題名をなぜ「やまなし」としたのだろうか

こ 宮沢賢治は、題名を「やまなし」とすることで、自然のこ  
わさよりも、自然恵みを読者に伝えたかったから。

ふりかえり

## 【ICT活用計画】

例：教師による教材提示の計画、ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等

- まなビューアを活用し、心に残ったり、手がかり(根拠)となる言葉を抜き出し、自分の考えをまとめるときに効果的に活用できるようにする。
- 電子黒板やタブレットを適宜使用し、児童の学習の深まりに役立てるとともに、作業時間の短縮を図る。
- 自分の考えやグループの考えをロイロにまとめ、電子黒板に示すことで、友達の考えを自分の考えとを比較し、考えを広げ、深める手助けとなるようにする。
- 宮沢賢治カードの作成において、適宜、タブレットを活用する。

## 【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

例：単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む

- ・県学力調査の過去問の中から、関連する問題を解く。(説明的文章及び資料活用の問題)
- ① 物語の文章を読み取ったり、情報を活用することについての定着の確認  
【全国学力・学習状況調査】 令和4年度国語 2 銀色の幻想  
【熊本県学力調査(ゆうチャレンジ)】 令和3年度国語 4 モーモー村のおくりもの(物語文)
- ② 本単元で働かせた見方・考え方  
(表現の効果に着目し、友達と比べながら考えることを通して、言葉への自覚を高めること)を生かして、言葉への関心を高めたり、友達と伝え合うことで考えを深めたりしたことを今後の学習につないでいく。
- ③ 今後物語などを読むときに、構成や表現に着目して読み、それを手がかりに、自分なりの考えが持てるようにする。